

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人綱領に合わせ、事業所目標を毎年設定し理念の共有に努めている	・法人の綱領があり、それを踏まえて毎年グループホームとしての具体的な職場目標を職員会議において話し合い決めている。以上の2つについては、事務所に掲示されている。その他にグループホームとしての理念も立てていると聞き取りましたが掲示は確認できませんでした。	法人綱領と職場目標と合わせてグループホームの理念を掲示して、職員や来訪者に共有することを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月ボランティアさんによる歌謡曲ステージや、運営推進委員会時にオレンジカフェ開催をしている	・毎月、夫婦の歌のボランティアが来訪して歌謡曲を披露してくれている。 ・グループホームで作成した七夕飾りを商店街のアーケードに飾って皆さんに見ていただいている。 ・地区の役員が交代すると、関係性が途絶えてしまう事がある。	地区の役員の改選期には、職員が出向いて、オレンジカフェの開催や運営推進会議、防災訓練等の相互の協力体制等を説明して交流を図る事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	オレンジカフェにて認知症の学習など行う機会もあり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通じオレンジカフェ開催や民生委員の集いの会場に使用して頂いたり、施設見学をしてもらう機会を設けています	・運営推進会議は、2か月に1回開催されている。利用者の状況や評価の報告等が行われている。またその際、グループホームの専門性を活かした取組として、オレンジカフェの開催や地域交流室を利用した民生委員の集い等が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	高齢者活躍支援課等からのメール内容を確認し必要事項は反映するよう努めている	2か月に1回のオレンジカフェについて、地域包括支援センター職員と協働で実施している。その際、グループホームの現状をみていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法的位置づけでもある高齢者虐待に関しての学習会を毎年開催。毎月職場会議でも拘束廃止検討委員会を開催し、身体拘束がない状況を維持できるよう努めている	本年6月に、1件の車椅子の安全ベルト装着ケースあり。家族の希望により実施したとの事であるが、同意書をもらい、委員会の開催や検討記録を確認する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法的位置づけでもある高齢者虐待に関しての学習会を毎年開催し虐待が起こっていないか、見過ごされていないか注意している。またスピーチロックがないかなども注意し接遇には注意している		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人から提供されているケアの倫理広報などを読み合わせする機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては書類を通じ説明を行い、同意を得られている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	要望、苦情等は随時受け付けており、毎月家族向けに通信を発行し要望などにはお答えできる体制をとっている	・意見箱は、玄関に設置してあるが、ほとんど入っていないとの事。要望等については、常日頃より家族と職員とのコミュニケーションを密にして聞きとる様にしている。また運営推進会議へ家族の出席をお願いして意見を反映する様にしている。運営規定等の掲示は確認できませんでした。	来訪者が運営の状況等を確認できる様に、運営規定等の掲示か冊子等を誰もが見やすい場所におく等の工夫及びホームページ等への掲載を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談を実施したり、会議の場で職員の意見、提案を聞き反映させるよう努力している	・年1回、職員に対する面談を実施している。日々の業務カンファレンス、フロア会議、全体会議等を通して意見を出してもらい、管理者で対応できない事は上に上げて検討する等運営に反映している。また何でも気づきを書いてもらう『統一ノート』を活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面接や、会議、その他業務の中で状況の把握に努めている。各自やりがいを持てる声掛けをおこなったり、ケアに対する想いを聞く機会を作るよう心掛けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日常常務の中で指導をする場面を設けたり、役割を担っていただくようにし育成を図る努力をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	介護福祉士会企画の案内や、介護職の集いの機会などある度参加声かけが行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	行動観察、把握に努め事前アセスメントを基に声掛けを行い不安を軽減するよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居申し込み時や契約時に困りごとの確認を行い、信頼関係の構築に努めている。また外出企画に参加して頂き、職員との交流の場に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	困りごとなどの確認や必要とされる支援の検討、提案をその都度行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	役割を持って生活できるようスタッフ一同心がけ支援にあたっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要に応じ家族への連絡、場合によっては協力していただくよう依頼等実施		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	必要に応じ、面会の調整等行っている	・家族の同意のある方については、友人等の面会も行っている。また家族等との連絡の為に携帯電話を所持している方が2名います。 ・行きつけの美容院等に家族と行く方もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂での席など配慮し、職員が介入してなるべくみんなで話ができるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族とお会いした際など挨拶、お話をしよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご希望を確認し意向の把握に努めている	・日々の生活の中で、意向や希望を聞き取っている。意思の表現の難しい方については、今までの生活歴や家族の話からアセスメントして本人本位に推察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時や家族来所時確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体調に合わせ声掛けし、離床を促し行えている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	昼間にカンファレンスを実施し意見の共有、検討と実施をしている	・本人や家族の意向を聞き取り、計画作成担当者が立案、職員間で検討、修正後家族に面会時に説明を行い、署名をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各勤務帯でその都度記録が行え、必要事項はホワイトボードを使用し情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟な支援、対応を心がけてるが、スタッフ個人間の差があり、課題とも感じている。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域との関係性があまり築けていなく、民生委員を通じ、近隣で行われているお茶のみサロンなどへ参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診等、必要に応じ支援できている	・隣の診療所の医師が、月1回全員について往診を行っている。必要がある場合は、同法人の病院を受診。入院も受け入れている。また家族対応でその他の医療機関で診療を受けている利用者もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師への連絡、週一回の訪問等、連携が図れている、また診療所への相談も行え、必要に応じ往診をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	上記同様		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化に伴い、家族希望を確認しムンテラを実施し、方針を医師とともに決めたうえでターミナル対応させていただいている。ターミナルに向けスタッフ間で意見交換できている。看取り後のデスカンファレンスも実施できている	・入所時に「病気悪化時の対応について希望」の書面において、重度化時の希望を確認。またレベル低下時についても、再度、隣の診療所の先生から説明を行い、今後について十分家族と話し合いをもって、方針を確認、同意してもらって実施している。(ムンテラ)また、職員にもそれをもとに情報共有して、カンファレンスで実際のケアを進めている。またデスカンファレンスも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応については学習会を実施し、少しでも不安なく業務につけるよう努力している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練、年1回の防災学習会を実施している	・当該グループホームをハザードマップによって確認、踏まえた上でBCPを作成している。消防避難訓練を年2回実施している。そのうち1回は、夜間想定で実施している。また防災訓練も年1回実施しているが、地域等の連携や『土砂防計画』の策定が確認できなかった。	今後は、策定されているBCPや『水防法による避難確保計画』に沿った防災訓練の実施また消防署立ち合いのもと運営推進会議を活用、自治会や消防団等地域の協力体制を交えた訓練の実施を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	概ね行えている	・排せつ介助等の実施については、トイレや居室で戸を開けてプライバシーに配慮して実施している。 ・利用者の人格を尊重する声かけ等に気をつけている。少し職員に考えてもらいたい時は、管理者が面談して本人自身に気づいてもらえる様にしている。グレーゾーンである不適切ケアについての意識づけは、実施されていない。	・今後さらにケアの質をグループホーム全体で高めていくために、職員個人を責めるのではなく、全体の課題として、「このケアはどうでしょうか?」と常日頃から不適切ケアについて、チェックリスト等を利用して皆で考える風土づくりを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛けしなるべく自己決定を促すよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間をずらしたり、入浴日を変更するなど柔軟な対応はしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容、整髪に気を付け、入浴後の衣類などは本人に確認しながら準備できている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の嗜好を確認したりし、お楽しみ給食の実施なども行えている	・現在、朝食についてはチルド食を利用している。夜勤者が湯せんを行い提供。昼食及び夕食については、調理師の職員が調理をして提供している。嗜好については、聞き取りを行っている。食材については地産地消や季節感にこだわっている。行事食として誕生会、クリスマス、敬老会等を実施。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量の確認、排泄の有無の確認を行いながら、脱水予防に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後声掛け促し、必要に応じ介入している		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	なるべく洋式トイレへの誘導や、ポータブルトイレへ誘導を心がけている	・おむつはずしへの取り組みとして、トイレでの排せつやポータブルトイレでの排せつを実施している。 ・おむつ交換は、定時＋随時交換で実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便コントロールは訪看、往診時に相談し実施できている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日や時間の変更など柔軟に対応している	・週2回を基本として、月木と火金の2グループで実施している。水土は、予備日として、入浴を拒否しがちな方に月木が実施できなかった時に水土に再度誘導している。 ・時間帯については、利用者の希望や体調を考慮して午前と午後に振り分けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各自の疲労度を確認し、その都度臥床促し行えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服状況の確認、必要に応じ介助にて内服し、状態の報告を訪看、往診時に行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションをはじめ、余暇活動の充実が図れるよう声掛け、実施に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族の希望で外出や、本人希望で外出できるよう対応に努めている。	・天候の良い日に近くを散歩している。 ・外出支援について本年は、善光寺参り、城山への桜見学、権堂アーケードへ自分達で作った七夕飾り見学等を実施している。今後は、初詣や新しくできたイオンモール等を考えているとの事。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出の機会がなく、施設内での金銭の必要もないため現在は所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時、電話連絡、テレビ電話の実施を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適に過ごしていただけるよう清潔に心掛けている。	・共用スペースについては、廊下にベンチを置くなど居場所作りをしている。食堂は温度や採光等の配慮がされている。壁面にりんごをイメージした木の幹を作り、それにマスキングテープで葉っぱや実等を貼って季節毎のレイアウトを行っている。季節感があり自然となごみ感が生まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂のレイアウト、席等配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室をはじめとした、生活スペースの環境整備に努めている	・生活の継続性の観点からも、なじみの家具等の持ち込みを推奨しているが、退所された方の置いていかれた物を使う等、ここにある物を使う方が多い。位牌や写真等は、持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立支援が行えるよう、役割を持って生活が送れるように日々カンファレンス、声掛けを行っている		